

CV211

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CV211 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2017 年 1 月 5 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL（生産終了）が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。またEOL製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社Webページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社Webページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定はATEN製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATENより発送した代替品の到着後、5営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。また、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「ご購入前のお問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC 情報	2
RoHS.....	2
同梱品.....	3
マニュアル表記について.....	4
概要.....	5
システム要件.....	6
対応 OS.....	6
特長.....	7
製品各部名称	8
セットアップ	9
接続図	10
操作方法.....	11
デスクトップビュー.....	12
コントロールパネル	13
コントロールパネルの設定	14
Windows クライアントのコントロールパネルの機能	15
ホットキー&マクロ	16
ビデオ設定	23
ズーム.....	26
バーチャルメディア	27
オンスクリーンキーボード	31
マウスポインター	33
マウス同期モード	34
設定パネル	36
アップグレード	37
Java コントロールパネル.....	39
VSR ビューア.....	40
製品仕様.....	43

EMC 情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉を発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告:本製品は CISPR 32 の FCC Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



同梱品

CV211 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ ラップトップ USB コンソールアダプター CV211 ×1
- ◆ USB タイプ A - ミニ USB タイプ B ケーブル (1.8m) ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド* ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

-
- * 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。
-

概要

CV211 は、ノートパソコンをコンピューターの USB コンソールとして使用可能にするラップトップ USB コンソールアダプターです。本製品は USB 2.0 および VGA ケーブルを使用してノートパソコンとコンピューターを接続し、ノートパソコンを USB コンソールとして使用できる*ほか、双方向ファイル転送やホットキーマクロ、リモート側の操作のビデオ録画やスクリーンショットにも対応しています。ケーブルをつなぐだけで、簡単かつスピーディーにリモートデスクトップアクセスを実現できるので、ソフトウェアのインストールは必要ありません。

CV211 は、サーバーに対してデスクトップ KVM(キーボード、ビデオ、マウス)のアクセスをプラグアンドプレイで簡単に行えるだけでなく、直観的な GUI を使用してバーチャルメディア機能を利用することで、2 台のコンピューター間でファイル転送を行うこともできます。

この直観的な GUI コンソールアプリケーションは、CV211 から起動するか、ノートパソコンにコピーしてから起動することで、ターゲットコンピューターへのアクセスを実現します。GUI コンソールウィンドウは自動的にウィンドウのペインをリサイズして、リモートコンピューターのデスクトップと同じサイズと解像度に調節することができます。このコンソールウィンドウのサイズ調節を行うことで、画面をスクロールすることなく、サーバーのデスクトップ画面全体を参照できます。CV211 を使用すれば、ターゲットコンピューターがどんな場所にセットアップされていても、ノートパソコンを直接接続するだけで、効率的にハードウェアベースのアクセスが可能になります。

注意: CV211 は、接続コンピューターをノートパソコンから完全に操作できるコンソール機能をプラグアンドプレイで利用できる製品です。

システム要件

- ◆ USB タイプ A ポートを搭載したノートパソコン 1 台
- ◆ USB タイプ A ポートおよび VGA ポートを搭載したコンピューター 1 台

-
- 注意:**
1. CV211 はケーブルをダイレクトに接続して初めて、ターゲットコンピューターを操作することができます。CV211 は 1 台のコンピューターに対し 1 対 1 のダイレクトな KVM コンソールとしてデスクトップにアクセスすることしかできませんので、スタンドアロンのコンピューターを 2 台操作することはできません。
 2. ユーザーは、アクセスしようとしているコンピューターにログインできる資格があることを、あらかじめ確認しておいてください。
-

対応 OS

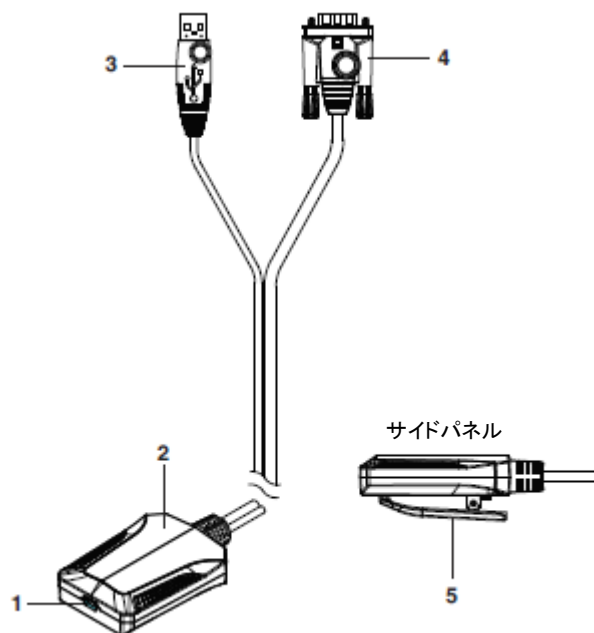
本製品の対応 OS は下表のとおりです。

OS
Windows 7、8、10

特長

- ◆ ノートパソコンをサーバーや ATM、キオスク端末の USB コンソールとして使用可能
- ◆ ノートパソコンと PC 間で、双方向ファイル転送が可能
- ◆ アナログビデオ解像度 - 最大 1,920×1,200@60Hz
- ◆ バーチャルメディア機能 - ファイルアプリケーション、OS パッチ、ソフトウェアのインストールやテスト診断が可能
- ◆ ビデオ録画機能やスクリーンショット機能により、リモート操作を記録保存することで、将来的なトレーニングやトラブルシューティングに活用可能
- ◆ マウスダイナシク™対応 - ノートパソコンと PC のマウス動作を自動同期
- ◆ 多言語対応オンスクリーンキーボード搭載
- ◆ ホットキーマクロ対応 - 対象のコンピューターに対して特定の操作を実行するキー入力を設定することで、タスクを正確かつ効率よく実行可能
- ◆ Windows 7 以降に対応
- ◆ リモートウィンドウ内の操作パネルをクリックするだけで簡単に操作できるツールバー搭載
- ◆ デスクトップスケーリング機能 - リモートデスクトップウィンドウのサイズや解像度を、画面サイズや比率で調節可能
- ◆ ホットプラグ対応
- ◆ プラグアンドプレイ対応 - セットアップ用ソフトウェア不要
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ ケーブルをまとめるのに便利なクリップを搭載

製品各部名称



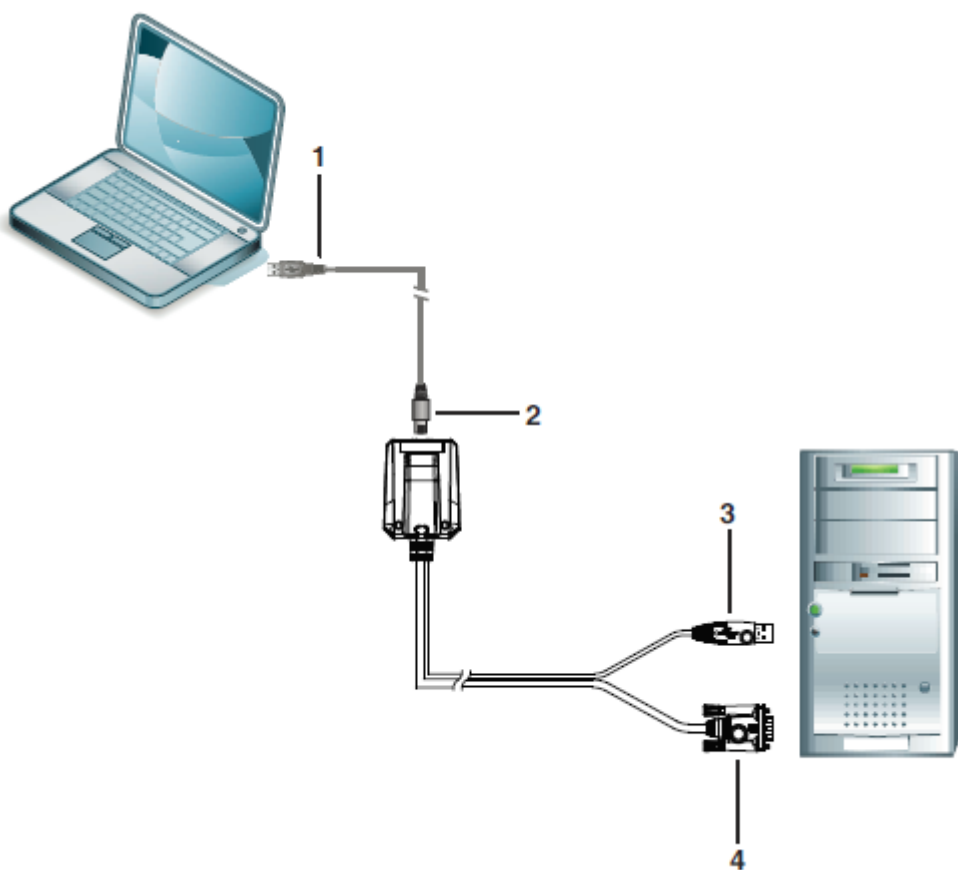
No.	名称	説明
1	ミニ USB ポート	CV211 とノートパソコンの USB ポートを接続するポートです。
2	接続 LED ランプ	ノートパソコンと接続コンピューターの間で USB 接続が確立していると、この LED ランプはブルーに点灯します。ノートパソコンが接続コンピューターにリモートクライアントセッション経由でアクセスしていると、この LED ランプはブルーに点滅します。
3	USB タイプ A コネクタ	接続コンピューターにつないで、キーボード、マウス、およびバーチャルメディアの信号を提供します。
4	VGA コネクタ	接続コンピューターの VGA ポートに接続して、ビデオ信号を提供します。
5	ケーブルクリップ	USB ケーブルと VGA ケーブルを、このクリップで固定してまとめておくことにより、不注意で引っ張ってしまうのを防ぎます。

セットアップ

CV211 のセットアップは、ほんのいくつかの手順で作業を行うだけで、簡単かつスピーディーにプラグアンドプレイでお使いいただけます。次の手順 1~4 は、次のページの接続図における番号に対応しています。

1. 製品同梱の USB タイプ A - ミニ USB タイプ B ケーブルの **USB タイプ A** コネクタを、ノートパソコンの USB ポートに接続してください。
2. 同じく、製品同梱の USB タイプ A - ミニ USB タイプ B ケーブルの **ミニ USB タイプ B** コネクタを、CV211 のミニ USB ポートに接続してください。
3. CV211 の USB タイプ A コネクタを、ターゲットコンピューターにおける USB ポートに接続してください。
4. CV211 の VGA コネクタを、ターゲットコンピューターにおける VGA ポートに接続してください。
5. ターゲットコンピューターとノートパソコンの間における接続が正常に確立されると、CV211 の接続 LED ランプが速いスピードで ON/OFF に点滅します。

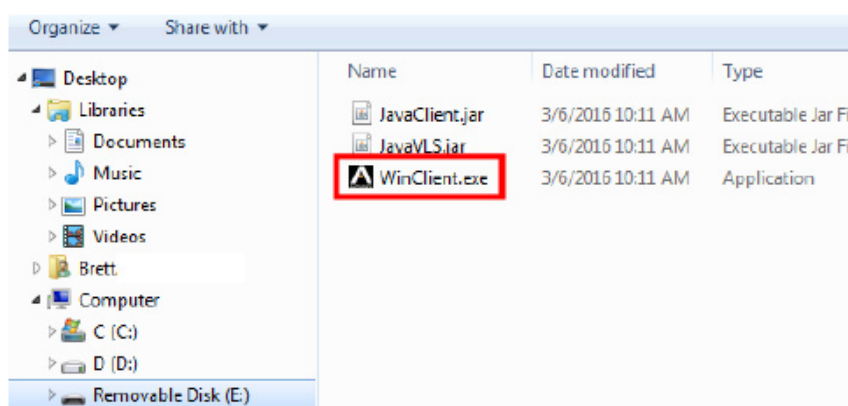
接続図



操作方法

ノートパソコンからリモートセッションを確立するには、次の手順に従って操作してください。

1. ハードウェアを接続してください。
2. USB デバイスが、ノートパソコン上でリムーバブルディスクとして認識されます。
3. エクスプローラーを立ち上げたら、リムーバブルディスクをクリックし、Windows クライアントのファイル「WinClient.exe」*をダブルクリックしてください。



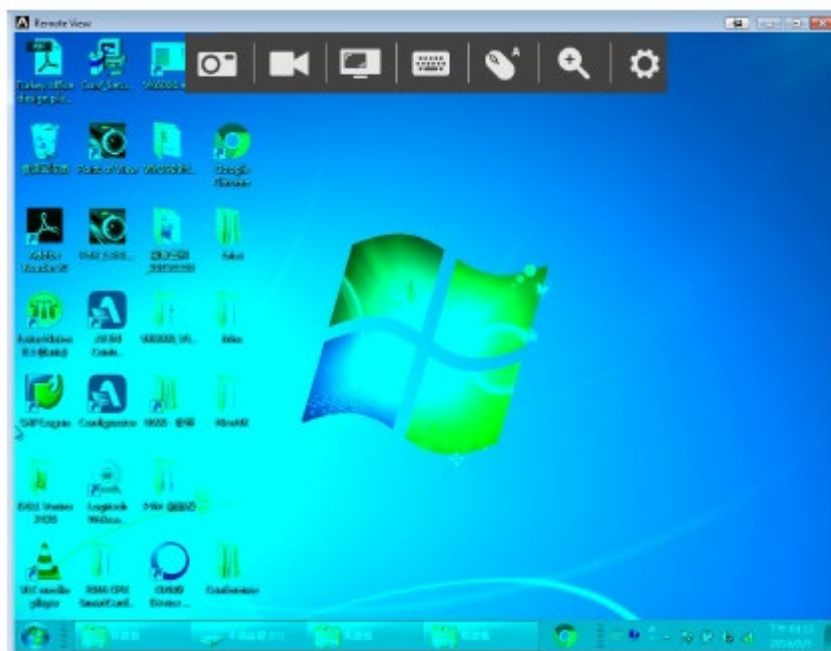
-
- 注意:**
1. リムーバブルディスクとして認識されない場合は、ノートパソコンと CV211 間で USB が正しく接続されているかを確認してください。
 2. Windows 以外の OS が稼働しているコンピューターでは、リモートアクセスに Java AP クライアントを使用します。Java AP クライアント経由で接続する場合は、リムーバブルディスクにある「JavaClient.jar」というファイルをダブルクリックしてください。これらのアプリを使用する場合は Java 公式サイトから最新版の JRE (Java Runtime Edition) をインストールしておく必要があります。
 3. ファイル「WinClient.exe」および「JavaClient.jar」は、リムーバブルディスクからノートパソコンにコピーし、ローカルで実行することができます。
 4. CV211 がキャプチャしたビデオを再生するには、「JavaVLS.jar」というプログラムファイルを使用します。
-

4. Windows クライアントはコンピューターを検索し*、接続が確立されるとリモートセッションをオープンします。

-
- 注意:** クライアント AP がコンピューターに接続できない場合は、ケーブルの接続を確認し、「Enumerate」(一覧表示)をクリックしてください。
-

デスクトップビュー

Windows クライアントのアプリケーションは、下図のようにコンピューターにアクセスできるコントロールパネルを伴ってデスクトップビューを表示します。



Windows クライアントのコントロールパネルは、通常は画面の上部中央に隠れていますが、マウスをこの部分に動かすと表示されます。このコントロールパネルは 7 種類のアイコンから構成されています。詳細については次のページで説明します。

- ◆ コントロールパネルでマウスポインターをアイコンの上に動かすと、メニューとそのオプションが表示されます。メニューが表示されない場合は、そのアイコンを直接クリックすると、その機能が使えるようになります。
- ◆ コントロールパネルをウィンドウ上部の別の位置に動かすには、バーの上にマウスポインターを置き、クリックしてドラッグすることで移動させることができます。

コントロールパネル

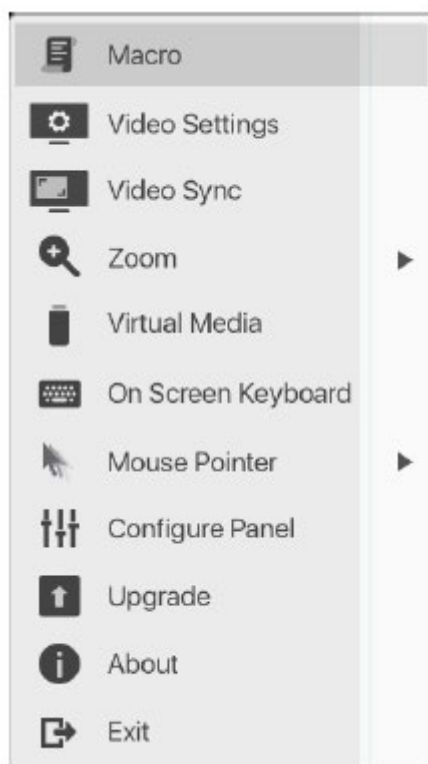


No.	アイコン	説明
1	キャプチャ	ターゲットコンピューターのディスプレイのスクリーンショット(画面キャプチャ)を撮ります(p.36 参照)。
2	録画	ターゲットコンピューターのディスプレイのビデオを録画します。このビデオはノートパソコンのデスクトップ上に保存されます。設定パネルの「save to」(名前を付けて保存)を使うと、保存するパスを変更することができます(p.36 参照)。ビデオファイルの再生方法については、p.40「VSR ビューア」をご参照ください。
3	ビデオ同期	接続コンピューターの画面の垂直および水平オフセット値を検出して、ノートパソコンの画面に自動的に同期させます。
4	オンスクリーン キーボード	オンスクリーンキーボードを起動します(p.31 参照)。
5	設定 (マウス)	マウス同期モードを自動と手動の間で交互に切り替えます(p.34 参照)。 ◆ 自動を選択すると、アイコンの文字は「A」になります。 ◆ 手動を選択すると、アイコンの文字は「M」になります。
6	ズーム	リモートディスプレイウィンドウをズームします。選択できるオプションは、25%、50%、75%、100%、1:1、およびフルスクリーンです(p.26 参照)。
7	設定 (コントロール パネル)	コントロールパネルを拡張版メニューで表示します。詳細については次のページをご参照ください。

コントロールパネルの設定




コントロールパネルの右端にあるアイコンをクリックすると、コントロールパネルの拡張版メニューが表示されます。これを使うと、下図のように追加オプションを選択できるようになります。



Windows クライアントのコントロールパネルの機能

コントロールパネルの機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	「Hotkeys & Macros」(ホットキー&マクロ)ダイアログを表示します (p.16「ホットキー&マクロ」参照)。
	「Video Options」(ビデオ設定)ダイアログを表示します (p.23「ビデオ設定」参照)。
	ビデオの自動同期を実行します。これは、「Video Options」(ビデオ設定)ダイアログの「Auto-sync」(自動同期)ボタンをクリックするのと同等の操作です(p.24 参照)。
	リモート表示ウィンドウをズーム表示します (p.26「ズーム」参照)。 注意: この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードがOFF)の場合にのみ、お使いいただけます。
	「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログを表示します (p.27「バーチャルメディア」参照)。
	オンスクリーンキーボードを起動します(p.31 参照)。
	マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは現在選択されているマウスポインターの種類に応じて表示が変わります(p.33「マウスポインター」参照)。
	「Configure Panel」(設定パネル)ダイアログを表示します (p.36「設定パネル」参照)。
	「Firmware Upgrade」(ファームウェアアップグレード)ダイアログを表示します (p.37「アップグレード」参照)。
	著作権およびファームウェアバージョンに関する情報を表示します。
	リモートビューアを終了します。Windows クライアント AP や Java クライアント AP を終了すると、リモートデスクトップウィンドウも終了します。



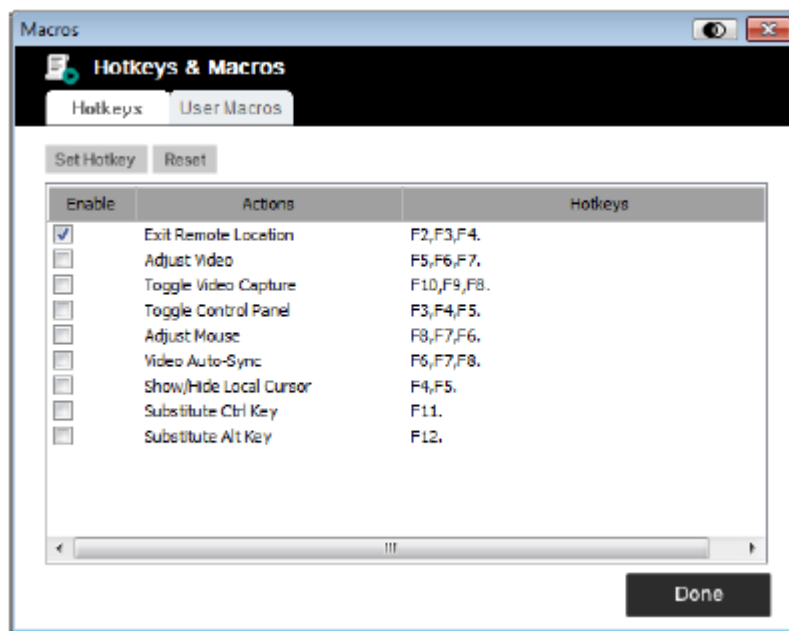
ホットキー&マクロ

このアイコンからは、「Hotkeys & Macros」(ホットキー&マクロ)ダイアログボックスの2つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ)にアクセスすることができます。これらの機能については、後続のセクションで説明します。

ホットキー

接続コンピューターの操作に関する各種アクションは、キーボードから入力されたホットキーで直接実行することができます。「Hotkeys」(ホットキー)タブでは、アクションを実行するホットキーを設定することができます。

「Actions」(アクション)列にはホットキーのアクションが、「Hotkeys」(ホットキー)列にはそのアクションを実行するキーの組み合わせがそれぞれ表示されます。アクションを有効にする場合は、「Enable」(有効)列にあるチェックボックスにチェックを入れてください。



アクションに対するホットキーを変更する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 対象となるアクションをリストから選択し、「**Set Hotkey**」(ホットキーの設定)ボタンをクリックしてください。
2. マクロキーとして使用するファンクションキーを一つずつ押してください。押されたキーの名前が「Edit Hotkey」(ホットキーの編集)欄に表示されます。
 - ◆ キーを入力する順番が同じでなければ、同じキーの組み合わせを複数のアクションに割り当てることができます。
 - ◆ ホットキーの設定をキャンセルする場合は「**Cancel**」(キャンセル)ボタンを、また、アクションの「Hotkeys」(ホットキー)欄を消去する場合は「**Clear**」(消去)ボタンをそれぞれクリックしてください。
3. マクロキーの入力が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

ホットキーの設定をすべてデフォルト値にリセットする場合は、「**Reset**」(リセット)ボタンをクリックしてください。

ホットキーアクションの内容は下表のとおりです。

機能	説明
Exit remote location (リモート操作の終了)	CV211 との接続を切断し、ローカルクライアントコンピューターの操作に戻ります。これはコントロールパネルの「Exit」(終了)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F2,F3,F4」に設定されています。
Adjust Video (ビデオの調整)	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログを起動します。これはコントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F5,F6,F7」に設定されています。
Toggle Video Capture (ビデオキャプチャの切替)	ビデオキャプチャ機能を使ってリモートディスプレイのビデオを録画する操作を、開始または終了します。デフォルトでは「F10,F9,F8」に設定されています。
Toggle Control Panel (コントロールパネルの切替)	コントロールパネルを表示/非表示に切り替えます。デフォルトでは「F3,F4,F5」に設定されています。

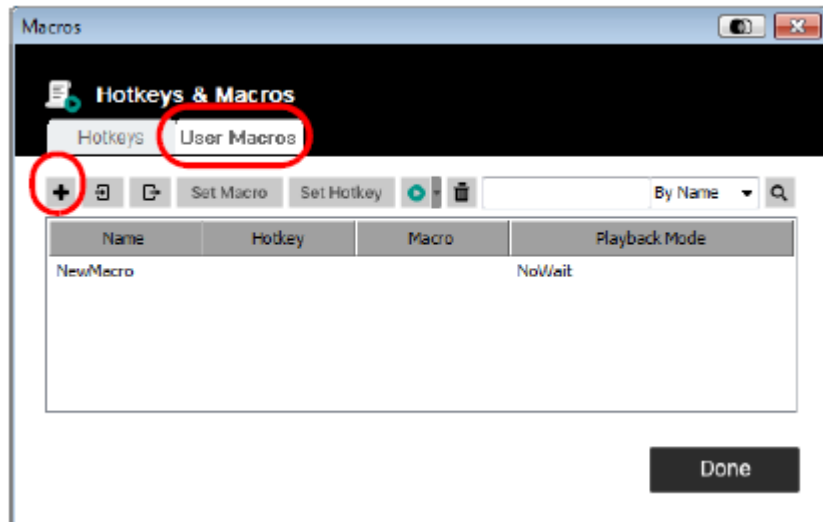
(表は次のページに続きます)

機能	説明
Adjust Mouse (マウスの調整)	ノートパソコンと接続コンピューターのマウスを同期します。デフォルトでは「F8,F7,F6」に設定されています。
Video Auto-sync (ビデオの自動同期)	自動同期を実行します。これはコントロールパネルの「Video Sync」(ビデオ同期)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F6,F7,F8」に設定されています。
Show/Hide Local Cursor (ローカルカーソルの表示/ 非表示)	ローカルマウスのポインター表示を OFF または ON に切り替えます。ON にした場合は、ローカルカーソルを非表示にし、マウスポインターとキーボードの使用を Windows/Java クライアント AP 内に限定して、コントロールパネルも非表示にします。これはコントロールパネルのマウスポインターアイコンから「Single」タイプのポインターを選択するのと同等の設定です。デフォルトでは「F4,F5」に設定されています。
Substitute Ctrl key (代替 Ctrl キー)	ノートパソコンが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャし、ホットキーがターゲットコンピューターに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりに使用するファンクションキーを指定することで接続コンピューターへと送られるようになります。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11 + 5]キーを入力すると、ターゲットコンピューターでは[Ctrl + 5]キーが押されたこととなります。デフォルトではこの代替キーが[F11]キーに設定されています。
Substitute Alt key (代替 Alt キー)	CV211 との接続中は、基本的にキーボードの入力は CV211 側に送られますが、[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + [Delete]]はノートパソコン側で有効となってしまいます。接続コンピューターに対して[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + [Delete]]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。例えば、[F12]を使用すると、上記のキー入力は[F12 + Tab]、[Ctrl + F12 + Delete]で実現できます。デフォルトではこの代替キーが[F12]に設定されています。

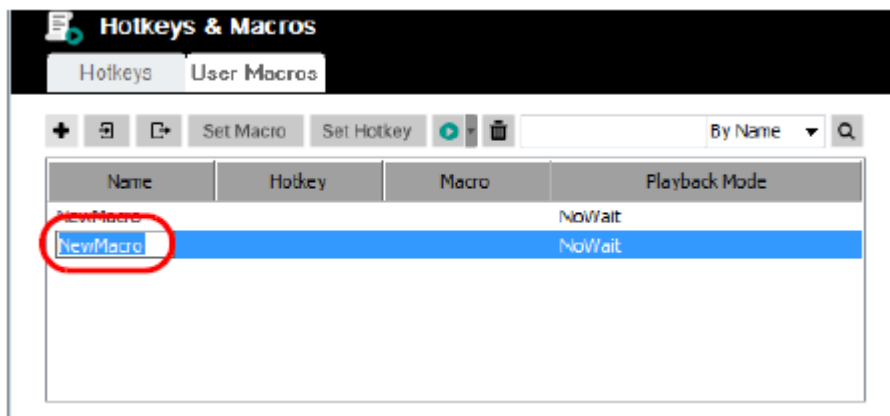
ユーザーマクロ


ユーザーマクロは、特定のアクションをターゲットコンピューター側で実行する場合に使用します。マクロを作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「User Macros」(ユーザーマクロ)を選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。

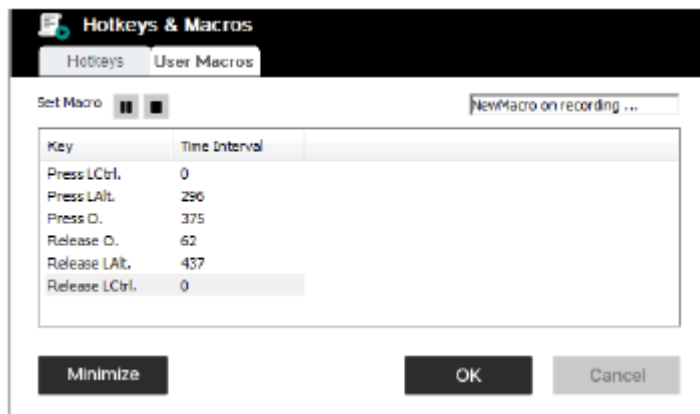


2. 新しいマクロはデフォルトで「NewMacro」という名前で作成されますので、必要であればダイアログでこの名前を変更してください。



3. 「Set Macro」(マクロの設定)をクリックしたら、「Record」(記録)ボタン  をクリックしてください。

4. マクロキーを押してください。



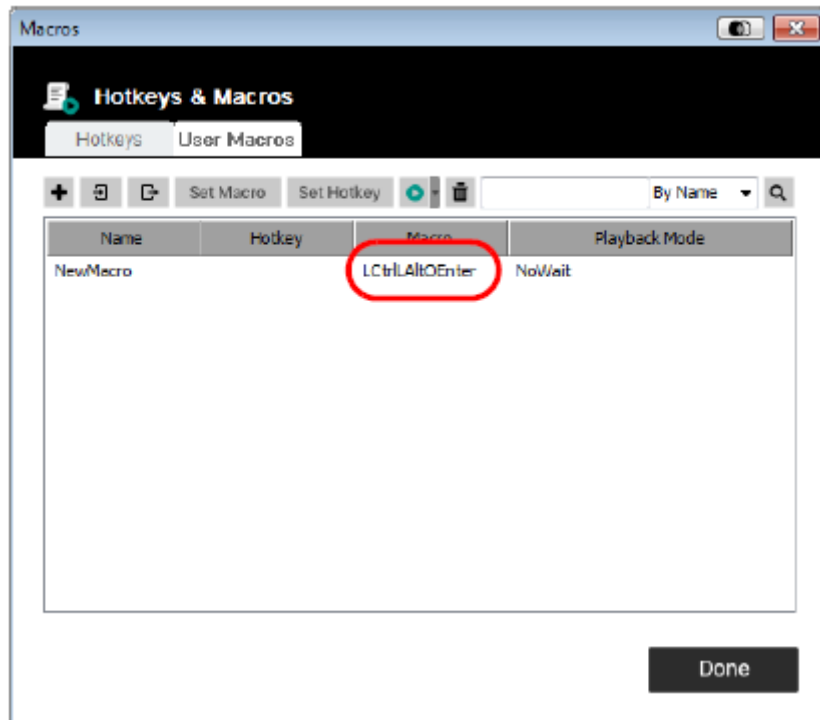
- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開する場合は、「Record」(記録)ボタンを押してください。
- ◆ キーの記録を終了する場合は、「Stop」(停止)をクリックしてください。
- ◆ 「Minimize」(最小化)をクリックすると、ダイアログボックスが非表示になり、画面左上に下図のような小さいパネルが表示されます。





- ◆ 「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックすると、キー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「Stop」(停止)ボタンをクリックしてください。
- ◆ マクロの記録中は、リモート画面が選択された状態になりますので、マクロダイアログの操作はできません。
- ◆ マクロダイアログボックスに戻る場合は、「Show Detail」(詳細表示)をクリックしてください。


-
- 注意:**
1. 大文字・小文字は区別されません。[A]と[a]は同様に処理されます。
 2. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。
-

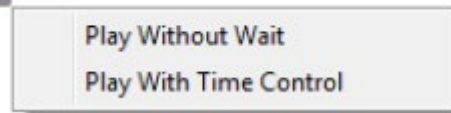
5. 「Minimize」(最小化)ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に「OK」ボタンをクリックしてください。この時、「Macros」(マクロ)ダイアログに戻ると、リストには先ほど入力されたユーザーマクロキーが表示されます。



6. マクロを実行するホットキーを作成する場合は、マクロを選択して「**Set Hotkey**」(ホットキー設定)をクリックしてください。
7. 入力キーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し「**Set Macro**」(マクロ設定)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、ダイアログボックスが表示されて、ここで入力キーの種類や順番を変更することができます。
8. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順で操作を行ってください。
9. トップパネルにある  メニューを使うとマクロリスト全体のインポートを、また、 メニューを使うとマクロリスト全体のエクスポートを、それぞれ行うことができます。

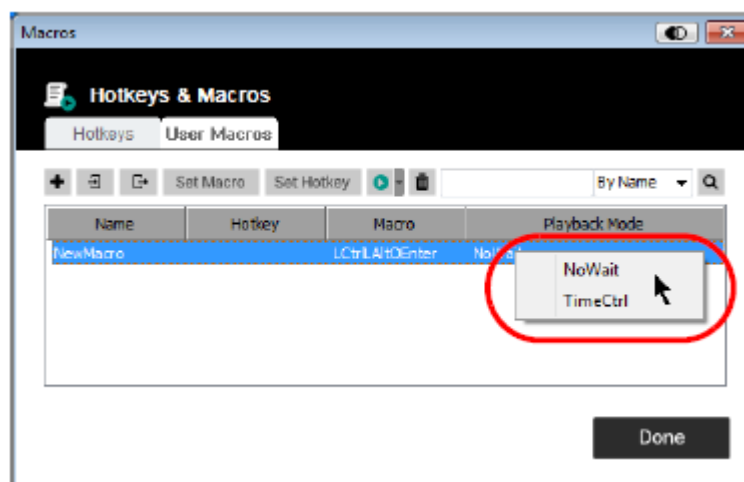
作成したマクロは、下記のいずれかの方法で実行することができます。

1. アクションに割り当てられたホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. 「Macros」(マクロ)ダイアログを開いて、 「Play」(再生)ボタンをクリックする。



このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定することができます。

- ◆ 「Play Without Wait」(すぐに再生)を選択した場合、マクロは入力キーを遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「Play With Time Control」(タイムコントロール再生)を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力と、その時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「Play」(再生)ボタンの隣にあるボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「Play」(再生)ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの値(すぐに実行かタイムコントロール)が「Playback」(再生)列に表示されます。



現在の設定値(上図では「すぐに実行」)をクリックして表示されるメニューから、別の設定を選択することで、この内容を変更することができます。

注意:

1. 検索機能に関する情報は次のセクションをご参照ください。
2. ユーザーマクロは、ローカルクライアントコンピューターに保存されるため、マクロの数、マクロ名の長さ、実行ホットキーの構成についての制限はありません。

検索

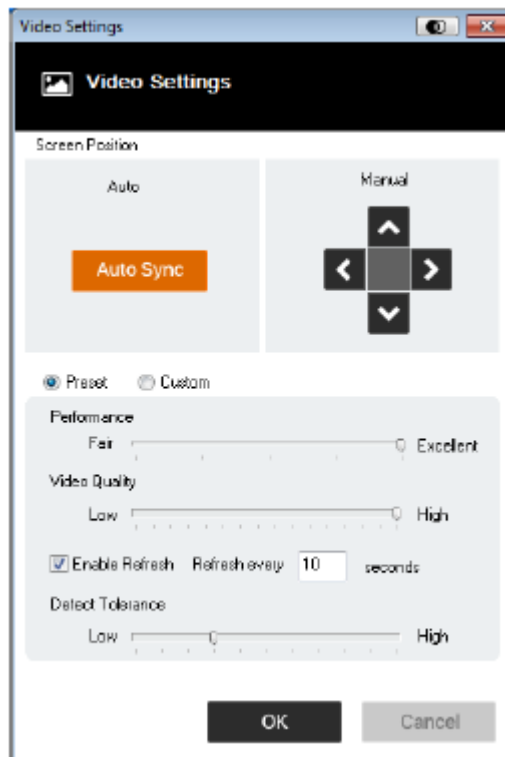
ダイアログの上部にある「Search」(検索)ボタンを使うと、下の大きいパネルに表示されるマクロ一覧から実行したり編集したりするマクロを絞り込むことができます。絞り込み条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力して「Search」(検索)ボタンをクリックしてください。そうすると、この文字列に合致するアイテムが下部のパネルに表示されます。



ビデオ設定

コントロールパネルで「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックすると、「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログを表示します。このダイアログでは、リモート画面の表示位置、スライダーの設定(パフォーマンス、ビデオ画質、検出許容値)および再描画設定の調整を行います。

ビデオ設定



項目	機能
Manual (手動)	方向ボタンをクリックすることで、接続コンピューターのウィンドウの水平位置および垂直位置を調整します。
Auto Sync (自動同期)	<p>このボタンをクリックすると、リモート画面の垂直方向および水平方向のオフセット値を検出し、ローカル画面と自動同期を取ります。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノートパソコンと接続コンピューターの間でマウスが同期を失った場合、大半のケースではこのボタンを押すことで再び同期することができます。 2. この機能は画面が明るいときに効果を発揮します。 3. 自動同期の結果に満足されない場合は、「Screen Position」(画面位置)パネルにある方向ボタンを使って手動で設定しなおしてください。
Performance (パフォーマンス)	CV211 では、このセクションを使ってビデオ画質を自動調節し、ビデオ表示またはパフォーマンスの品質を最適化します。
Video Quality (ビデオ画質)	スライドバーを使ってビデオの画質を調節してください。値がより大きければ画質はより向上しますが、それだけ多くのビデオデータが転送されることとなります。
Enable Refresh (再読み込みを有効にする)	<p>CV211 は、1~99 秒毎に画面を再描画し、ブロックノイズ等歪みを除去します。「Enable Refresh」(再読み込みを有効にする)の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1~99の整数で入力してください。CV211 はここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効になっていますので、有効にしたい場合は「Enable Refresh」(再読み込みを有効にする)の隣にあるチェックボックスをクリックしてチェックを入れてください。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CV211 はマウスの動作が止まった時点でインターバル時間の計測を開始します。 2. この機能を有効にするとネットワーク上に送信されるビデオデータの量が増加します。また、設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。

(表は次のページに続きます)

項目	機能
Detect Tolerance (検出許容値)	ビデオ画質に関連する設定項目です。この項目の値を変更することでピクセル変化の検出を行ったり、変化を無視したりすることができます。設定値を高くすると、データ転送量が少なくなり、表示画質が低くなります。また、設定値を低くすると高い表示画質を提供することができますが、設定値が低すぎるとデータの転送量が増え、逆に PC パフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。



ズーム

ターゲットコンピューターのコンソールウィンドウをズーム表示します。本製品が提供している表示倍率は下表のとおりです。

設定	説明
25%	ターゲットコンピューターのウィンドウを 25%の倍率で表示します。
50%	ターゲットコンピューターのウィンドウを 50%の倍率で表示します。
75%	ターゲットコンピューターのウィンドウを 75%の倍率で表示します。
100%	ターゲットコンピューターのウィンドウを 100%の倍率で表示します。
1:1	ターゲットコンピューターのウィンドウを 100%の倍率で表示します。これは 100%の倍率で表示した場合と異なり、ターゲットコンピューターのウィンドウがリサイズされても、表示サイズは変更されません。表示されていない部分进行操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させスクロールを使用してください。
Full Screen (フルスクリーン)	接続コンピューターのウィンドウをフルスクリーンで表示します。このメニューをもう一度クリックすると、フルスクリーン表示を終了します。

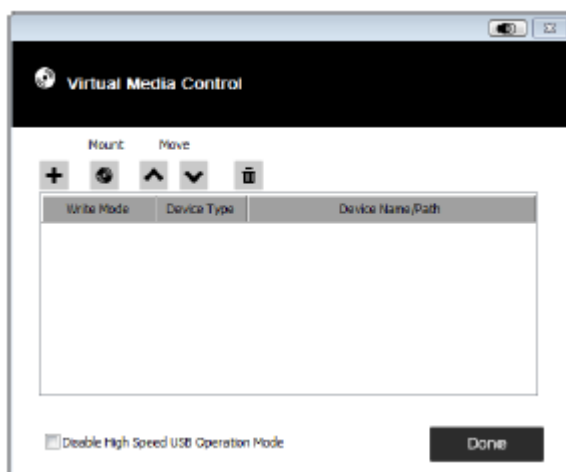
バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使うと、ノートパソコン側のドライブ、ISO ファイル、フォルダー、リムーバブルディスク、およびスマートカードリーダーを、ターゲットコンピューター側でマウントして使用することができます。


バーチャルメディアのマウント

バーチャルメディアをマウントするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

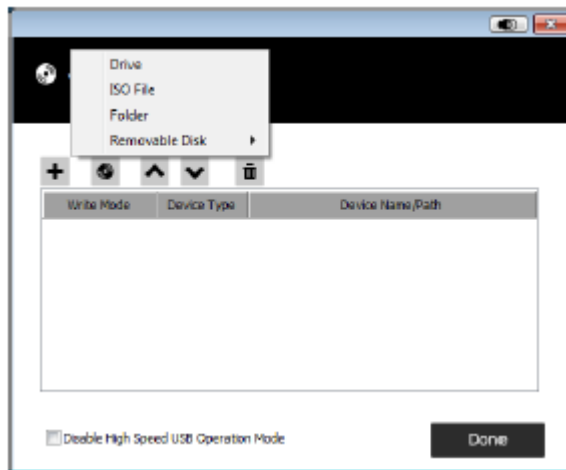
1. バーチャルメディアアイコンをクリックして「Virtual Media Control」(バーチャルメディア操作)ダイアログを起動してください。



注意:

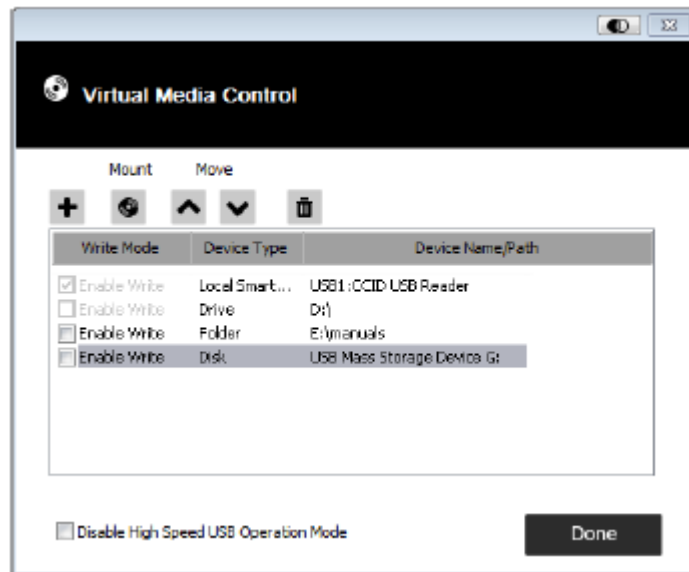
ダイアログ右上にある  ボタンを押すと、ダイアログボックスの透明度を調整するスライダーが起動します。調整が終わったら、ダイアログボックスの任意の場所をクリックすると、スライダーが終了します。

2. 「+」ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。




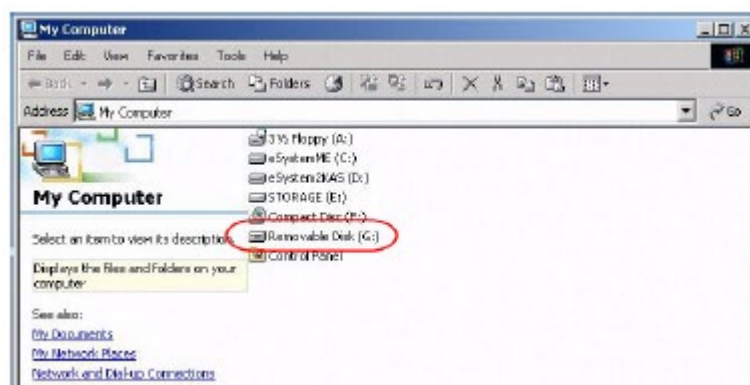
選択した項目に応じて、ドライブ、ISO ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクのパスを選択するダイアログが表示されます。

3. お使いのデバイスがフルスピード USB にしか対応していない場合は、「Disable High Speed USB Operation Mode」(ハイスピード USB 操作モードを無効にする)の項目にチェックを入れてください。
4. その他のソースメディアも追加する場合は、「+」ボタンをクリックして必要となるメディアを追加してください。バーチャルメディアは最大 3 つまでマウントすることができ、リストで上から 3 つ目までの項目が選択されます。また、バーチャルメディアとスマートカードリーダーは同時にマウントすることができます。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動させたいデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックして順序を決定してください。
5. 「Read」(読み取り)は、ターゲットコンピューターにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また、「Write」(書き込み)は、ターゲットコンピューターからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ指しています。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可したい場合は、「Enable Write」(書き込みを有効にする)の項目にチェックを入れてください。



注意: リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、そのアイテムは、リストにおいてグレーで表示されます。

6. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択し、 ボタンをクリックしてください。
7. ソースメディアの選択後に「Mount」(マウント)ボタンをクリックすると、ダイアログは終了します。このとき、選択されたバーチャルメディアのデバイスがターゲットコンピューターにリダイレクトされ、ターゲットコンピューターのファイルシステム側で認識されます。



デバイスがマウントされると、そのデバイスをターゲットコンピューターのメディアと同じように扱うことができますので、ファイルのドラッグやドロップを行ったり、ターゲットコンピューターのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたデバイスに保存したりすることもできます。

リダイレクトされたメディアに保存されたファイルは、実際にはノートパソコン側のファイルシステムに保存されます。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にノートパソコン側から移動することになります。

8. リダイレクトを終了する場合は、コントロールパネルを起動してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。

オンスクリーンキーボード

CV211 では、各対応言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。このアイコンをクリックすると、下図のようなオンスクリーンキーボードが表示されます。



オンスクリーンキーボードを利用するメリットの一つとして、ターゲットコンピューターとノートパソコンのキーボード言語が異なる場合でも、片方のキーボードの設定を変更することなく操作ができるという点が挙げられます。ユーザーはオンスクリーンキーボードを起動して言語を選択するだけで、オンスクリーンキーボードの利用が可能です。

注意: オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。実際のキーボードで操作することはできません。

言語の変更方法

言語を変更する場合は、以下の手順に従って操作してください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。

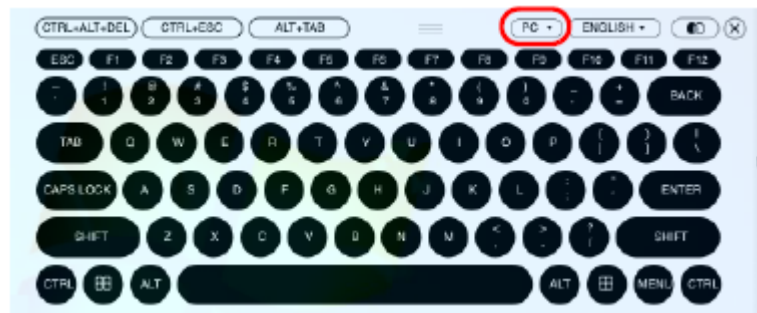


2. 新しい言語をリストから選択してください。

プラットフォームの選択

オンスクリーンキーボードは、PCに加えて Sun プラットフォームにも対応しています。プラットフォームを選択するには、以下の手順に従って操作してください。

1. 現在選択されているプラットフォームの隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



2. 新しいプラットフォームをリストから選択してください。

拡張されたキーボード

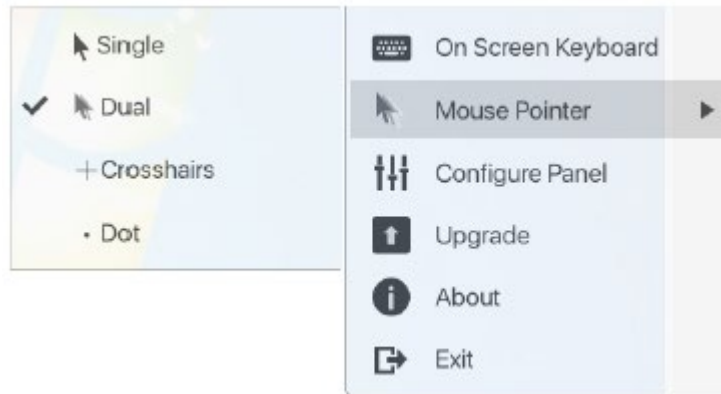
拡張されたオンスクリーンキーボードを表示または非表示にする場合は、キーボード右端にある矢印ボタンをクリックしてください。





マウスポインター

CV211 では、ターゲットコンピューター側の画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。



-
- 注意:**
1. 「Dot」(ドット)ポインターは、Java アプレットビューアや Java クライアント AP ではご利用いただけません。
 2. 「Dot」(ドット)ポインターを選択すると、マウス表示切替のホットキー機能を使った時と同じような動作になります。
-



マウス同期モード

このアイコンをクリックすると、ノートパソコンとターゲットコンピューターの間で、マウスのポインターを自動または手動で同期させることができます。

自動同期

マウスダイナシク機能を使用すると、ノートパソコンとターゲットコンピューターの間で、マウスのポインターを自動的に同期しますので、定期的にマウスの再同期を行う手間が軽減されます。

マウスの同期モードを表すツールバーのアイコンは、下表のとおりです。

アイコン	機能
	このアイコンの上に「A」がある場合、マウスダイナシク機能が利用可能かつ有効になっていることを表します。マウスダイナシク機能が利用可能である場合は、これがデフォルト設定になっています。
	このアイコンの上に「M」がある場合、マウスダイナシク機能が利用可能であるものの、無効であることを表します。

マウスダイナシクが利用可能である場合、このアイコンをクリックするとマウスダイナシクを有効または無効に切り替えます。マウスダイナシクを無効に選択した場合は、次のセクションの手動同期を行う必要があります。

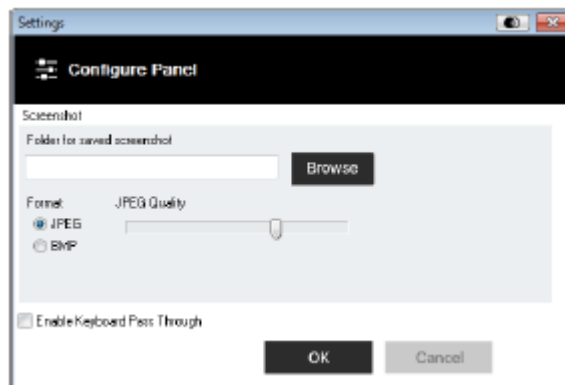
手動設定によるマウス同期

ノートパソコンとターゲットコンピューターの間で、マウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. コントロールパネルの「Video Sync」(ビデオ同期)のアイコンをクリックして、ビデオとマウスの自動同期を実行してください。
2. ビデオ調整機能の「Auto Sync」(自動同期)ボタンを使って自動同期を実行してください(p.23 参照)。
3. 「Adjust Mouse」(マウスの調整)ホットキー(p.18 参照)を使って、マウスの調整機能を起動してください。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させてください。

設定パネル

コントロールパネルの設定パネルのアイコンをクリックすると、スナップショットやキーボードパスルーの設置が行えるダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスの構成は下表のとおりです。

項目	説明
Screenshot (スクリーンショット)	<p>この部分は、コントロールパネルのキャプチャアイコンを使って画面キャプチャを撮る際のパラメーターを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Path」(パス)は、キャプチャされた画面やビデオファイルが自動的に保存されるフォルダーのパスを設定します。パスを指定する場合は、テキストボックスの隣にある「Browse」(参照)ボタンをクリックし、フォルダーの選択ダイアログから該当フォルダーを選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでパスを指定していない場合、スナップショットやビデオファイルはお使いのノートパソコンのデスクトップ上に保存されます。 ◆ キャプチャした画面のイメージの保存形式(BMP、JPEG)をラジオボタンで選択してください。 ◆ JPEG を選択した場合は、キャプチャした画像の画質をスライダーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。
Keyboard Pass Through (キーボードパスルー)	<p>この項目にチェックが入っている場合、[Alt + Tab]の入力信号はターゲットコンピューターに送信されます。チェックが入っていない場合は、[Alt + Tab]の入力信号は、お使いのノートパソコンに送信されず。</p>

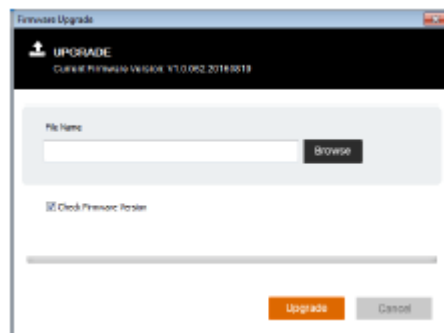


アップグレード

このアップグレードアイコンを使うと、CV211 のファームウェアをアップグレードさせることができます。

ファームウェアをアップグレードするには、下記の手順に従って操作してください。

1. 弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)にアクセスし、CV211 の最新ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
2. ファイル「WinClient.exe」を実行してください。そうすると、リモートビューウィンドウが表示されますので、コントロールパネル設定のアイコンをクリックし、アップグレードファイルを選択してください。そうすると、ファームウェアアップグレードのウィンドウが表示されます。

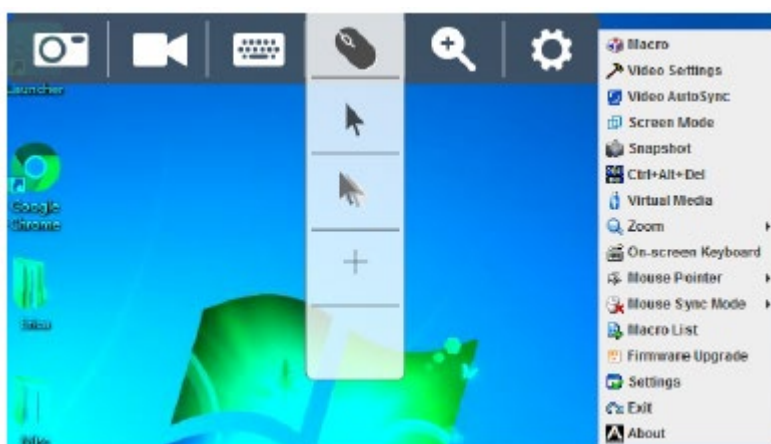


3. 「Browse」(参照) ボタンをクリックして、新しいファームウェアが保存されているフォルダーに移動し、ファームウェアファイルを選択してください。
4. 「Upgrade」(ファームウェア) ボタンをクリックして、アップグレードを行ってください。
 - ◆ 「Check Firmware Version」(ファームウェアのバージョンを確認)の項目にチェックが入っている場合は、アップグレードの実行時に、現在インストールされているファームウェアファイルと、この画面で指定したファームウェアファイルの間でバージョンの比較を行います。現在インストールされているバージョンの方が新しい場合や同じである場合、処理を中止するという内容のメッセージがダイアログに表示されます。

- ◆ 「Check Firmware Version」(ファームウェアのバージョンを確認)の項目にチェックが入っていない場合は、アップグレードファイルのバージョンの比較を行わずにインストールします。
 - ◆ アップグレードの進捗状況はプログレスバーに表示されます。
 - ◆ アップグレードが正常に終了すると、CV211 の製品本体がリセットされます。
5. CV211 を接続しなおして、ファームウェアのバージョンが新しいものに更新されていることを確認してください。

Java コントロールパネル

Java クライアントビューアおよび Java クライアント AP のコントロールパネルは、基本的に Windows クライアントのものと同様にお使いいただけます。



Java 版と Windows 版の主な違いは、以下のとおりです。

- ◆ Java 版では、「Macros」(マクロ)ダイアログボックスで、「Toggle Mouse Display」(マウス表示の切替)機能がお使いいただけません。
- ◆ Java 版では、「Dot」(ドット)ポインターがお使いいただけません。
- ◆ Java 版では、スナップショットのフォーマットは BMP の代わりに PNG を提供しています。

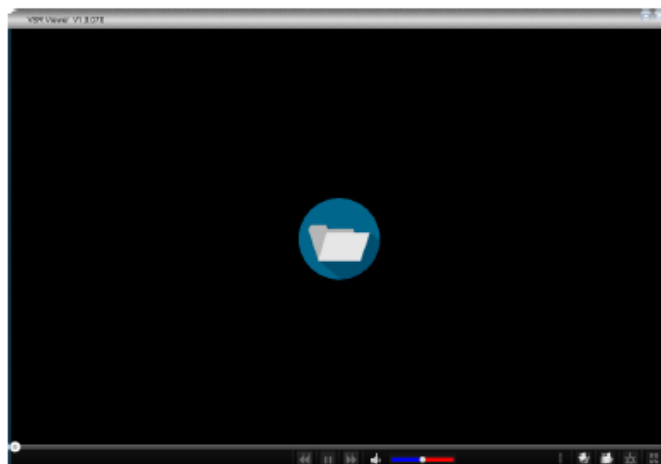





VSR ビューア

CV211 では、コントロールパネルのビデオアイコンを使うと、ターゲットコンピューターのビデオ表示を録画することができます。ビデオアイコンをクリックすると、録画を開始/終了します。ビデオはノートパソコンのデスクトップ上に保存されます。また、これらのファイルは VSR ビューアというソフトウェアで開くことができますが、セキュリティ上の理由から、VSR ビューア以外のツールでは開くことができない仕様となっております。







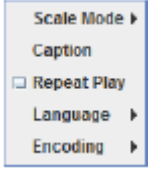
ビデオファイルを開くには、以下の手順に従って操作してください。

1. エクスプローラーを開いて、CV211 によって作成されたリムーバブルドライブにアクセスしてください。
2. ファイル「**JavaVLS.jar**」をダブルクリックして、VSR ビューアを起動してください。

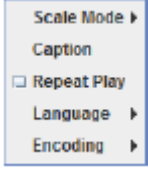






アイコン	機能
	このフォルダーアイコンをクリックすると、参照可能なビデオファイルを開きます。このアイコンをクリックして、保存済みの「*.vls」ファイルを参照し、ファイルを選択したら「Open」(開く)をクリックしてください。
	プレイヤー上のプログレスボタンをクリックして前後にドラッグすると、ビデオを任意の時点に進めることができます。また、マウスをプレイヤーの上に動かすと、日時の詳細が表示されます。
	このアイコンをクリックすると、再生中のビデオログを一時停止します。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	このアイコンをクリックすると、一時停止したビデオログの再生に戻ります。
	このアイコンをクリックすると、再生中のビデオを早送りします。
	このアイコンをクリックすると、再生中のビデオを巻き戻します。
	このアイコンをクリックすると、オーディオをミュートします。
	ボリュームコントロールバーの丸いボタンを左右にドラッグすると、ボリュームを小さくしたり大きくしたりすることができます。
	このアイコンをクリックすると、設定メニューバーを表示します。詳細については、次の行を参照してください。
	<p>設定メニューをクリックすると、次のオプションを設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Scale Mode (スケールモード) : <ul style="list-style-type: none"> <i>Keep Video Size</i> (ビデオサイズを維持する) - ウィンドウがどのように調整されても、ビデオを同じサイズで維持します。ウィンドウが小さすぎると、デスクトップの一部が画面に表示されなくなる場合があります。 <i>Scale Video to Window</i> (ビデオをウィンドウサイズにリサイズする) - ビデオ表示をウィンドウ全体のサイズになるように拡大/縮小します。 <i>Keep Video Ratio</i> (ビデオ縦横比を維持する) - ウィンドウがどのように調整されても、ビデオ表示比率を保ったままサイズを拡大/縮小します。 ◆ Caption (キャプション) : 画面に表示される注意書き (キャプション) のテキストフォーマットを調整するウィンドウが表示されます。キャプション機能とは、接続コンピューター上でキー入力やマウス操作があった場合に、テキストで通知する機能です。コントロールパネルの起動によって入力されるテキストに関する詳細は、p.42 をご参照ください。 <ul style="list-style-type: none"> <i>Caption Setting</i> (キャプション設定) - 右上にある小さいアイコンをクリックすると、キャプション機能の ON/OFF を切り替えます。 <i>Font</i> (フォント) - フォントの種類とサイズを選択します。 <i>User Key Strokes</i> (ユーザーのキー入力) ユーザーがコンピューターにアクセスしている際にキーボード入力があることを表すテキスト、およびそのテキストのフォント色を選択します。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
 <p>(続き)</p>	<p><i>User Mouse Clicks</i>(ユーザーのマウスクリック) - ユーザーがコンピューターにアクセスしている際にマウスでクリックしていることを表すテキスト、およびそのテキストのフォント色を選択します。</p> <p><i>Position</i>(位置) - 画面上におけるテキストの表示位置をクリックして選択します。</p> <p><i>Default</i>(デフォルト) - このメニューをクリックすると、キャプションのテキストをデフォルト設定に戻します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Repeat Play (繰り返し再生) :ビデオを連続再生します。すなわち、ビデオ再生が終わったら、また最初から再生します。 ◆ Language (言語) :VSR ビューア GUI で使用する言語を選択します。 ◆ Encoding (エンコーディング) :異なるリージョン向けにビデオエンコーディングを選択します。デフォルトでは「US-ASCII」に設定されています。
	<p>このアイコンをクリックすると、ビデオファイルを新しい場所に新しい名前で作成します。</p>
	<p>このアイコンをクリックすると、新規ビデオファイルを開きます。VLS ビューアは「*.vls」という拡張子のファイルしか開くことができません。</p>
	<p>このアイコンをクリックすると、コントロールパネルのウィンドウを開きます。コントロールパネルは、ビデオが録画されている時にキーボードから押される各キーに関する情報を表示します。</p>
	<p>このアイコンをクリックすると、VLS ビューアをフルスクリーンモードで開きます。フルスクリーンモードを終了するには、このアイコンをもう一度クリックしてください。</p>

製品仕様

コンピューター接続数	1
コネクタ	
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	ミニ USB メス×1
KVM(コンピューター)ポート	キーボード/マウス:USB タイプ A オス×1
	モニター:D-sub15 ピン オス×1
LED	ブルー×1
動作環境	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露無きこと
ケース	
ケース材料	プラスチック
重量	0.13 kg (0.29 lb)
サイズ(W×D×H)	54×71×31 mm
同梱品	USB タイプ A - ミニ USB タイプ B ケーブル(1.8m)×1
	クイックスタートガイド×1